

2020信州ねんりんピック 川柳の部

	氏名	年齢	作品	審査員講評
長野県知事賞	木口 静代（長野市）	74	生き様が 輝いている 笑いじわ	人生の妙味はのために払った犠牲や危険に比例しているともいわれる。「笑いじわ」は、困難を乗り越えてきた生き様に対する勲章かもしれない。親近感たっぷりに描き出されているところが楽しい。
長野県長寿社会開発センター理事長賞	原田 耕司（長野市）	82	年輪が 顔に出ている 苦労人	中年から老年にかけて、人間はさまざまなものを失っていく。人間としての闘いが年輪となって顔に出ている。その苦労も今となっては遠い思い出。深い思いがじんと沁みてくる。
入賞	田中 小夜（長野市）	70	年重ね 年輪のよう 丸くなる	年を重ねると背中も心も丸くなる。人と人の諍いも丸く収められるようになるのも年の効か。
	島田 洋審（飯綱町）	86	輪になると 見えないものが 見えてくる	輪になると友達や仲間の今まで知らなかった良いところに気づく。あばたもエクボに見えてくるから不思議。
	佐幸 ミツ子（塩尻市）	79	ふれあいの 広場に弾む 絆の輪	広場での人との出会いや談笑から断ちがたい結びつきが生まれる。心を通わせる幸せは何ものにも代えがたい。
	佐藤 崇子 （上田市）	78	人の輪に 溶けて余生の 風和む	人生は努力半分運半分。我（が）を捨てて達観すると楽に生きられる。
	島田 勝明（須坂市）	77	輪の外に 出てみて分かる 人の情	独りになってあれやこれやと想うにつけ、一つまた一つと知る人の情けの有難さ。